

平成23年度第2回経営協議会議事要録

- 1 日 時 平成23年6月27日(月) 14:15～15:35
- 2 場 所 ホテルアソシア豊橋 5階「チェリールーム」
- 3 出席者 議長 学長
阿部委員, 高嶋委員, 武藤委員, 吉川委員, 神野委員, 辻 委員, 菊池委員
- 4 列席者 水谷監事, 神野特別顧問

5 議 題

[審議事項]

- (1) 平成22事業年度決算について
- (2) 平成22事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)等について

[報告事項]

- (1) 平成24年度概算要求について
- (2) 国家公務員の給与減額支給措置について
- (3) その他
 - ア 事前伺い(博士後期課程の設置)の結果について
 - イ 外部資金受入状況及び科学研究費補助金採択状況について
 - ウ 豊橋技術科学大学関係新聞記事について
 - エ 東海地区国立大学の大学間連携について
 - オ 業務達成基準適用業務の実施計画変更業務の進捗状況について

6 議 事

議事に先立ち、平成23年度第1回議事要録(案)について、原案どおり確認された。

[審議事項]

- (1) 平成22事業年度決算について

辻理事・事務局長及び水谷監事から、資料「審議1」に基づき、平成22事業年度の決算状況及び当該事業年度における監査結果について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認され、6月30日までに財務諸表等を文部科学大臣に提出することとされた。

なお、文言等の軽易な修正等があった場合の取扱いについては、学長に一任された。

主な説明内容は次のとおり

- ・前回の経営協議会時との目的積立金の差異(主に消費税額が確定したことによる差異)
- ・会計監査人監査の結果、財務諸表等は適正であった。
- ・監事監査の結果、事業報告書及び財務諸表等は適正であり、職務の執行に関する不正の行為又は法令等に違反する重大な事実は認められない、又、会計監査人の監査方法及び結果は相当であると認めること及び指摘すべき後発事象はない。

- (2) 平成22事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)等について

学長及び菊池副学長から、資料「審議2」に基づき、平成22事業年度の業務実績報告書案等について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認され、6月30日までに平成22事業年度に係る業務の実績報告に係る報告書を国立大学法人評価委員会に提出することとされた。

なお、文言等の軽易な修正等があった場合の取扱いについては、学長に一任された。

主な意見は次のとおり

- ・体制、制度はできあがった。PDCA(plan-do-check-act)サイクルで言えば、P-Dができたところであり、今後、しっかりチェックし、アクションするようしてほしい。
- ・多忙を極めるなか、豊橋技術科学大学ならではの、教育等も引き続き、検討してはどうか。

[報告事項]

(1) 平成24年度概算要求について

学長から、資料「報告1」に基づき、文部科学大臣に要求予定の平成24年度概算要求の事業及び概要について報告があり、要求結果等について、次回経営協議会で報告する旨併せて説明があった。

(2) 国家公務員の給与減額支給措置について

学長及び辻理事・事務局長から、資料「報告2」に基づき、6月3日に閣議決定された国家公務員の給与減額支給措置について、具体的な措置等、今後の見通しは、現段階では不明であり、今後、政府等の動きや、他大学の状況等を見極めるなど、慎重に対応していく旨説明があった。

(3) その他

ア 事前伺い(博士後期課程の設置)の結果について

学長から、資料「報告3」に基づき、平成24年度の博士後期課程再編に伴う設置計画に係る大学設置・学校法人審議会への事前伺いの結果について、設置計画の内容に修正はなく、報告による設置が可能となった旨報告があった。

イ 外部資金受入状況及び科学研究費補助金採択状況について

研究協力課長から、資料「報告4」に基づき、平成22年度及び23年度の外部資金(共同研究、受託研究、寄附金)受入状況及び科学研究費補助金採択状況並びに平成23年度科学研究費補助金内定状況について、報告があった。

ウ 豊橋技術科学大学関係新聞記事について

学長から、資料「参考」に基づき、平成23年5月26日から6月20日までの本学関係新聞記事について、説明があった。

エ 東海地区国立大学の大学間連携について

学長及び辻理事・事務局長から、今年度から、東海地区の国立大学長が集まり、大学間連携の推進について、議論をしている旨説明があった。

オ 業務達成基準適用業務の実施計画変更業務の進捗状況について

辻理事・事務局長から、前回、実施計画の変更が承認された業務達成基準適用業務(エレクトロニクス先端融合研究融合研究推進のための動物実験施設の整備事業(インキュベーション施設の改修工事))は、6月15日に変更予定のとおり竣工した旨報告があった。

以 上

<フリートーキング> 15:35～16:20 *以下は議事要録としては配付しません。

★学長及び神野理事から、特別推薦入試を含め、学部から大学院までのリーダー養成教育等の現状及び今後の計画等について説明の後、意見交換が行われた。

(○本学, ●委員)

○学長

- ・特別推薦は52名, 全般的に非常によい学生が受験し, 実施には手応えを感じている。
- ・リーディング大学院構想等, 本学では国際的に通用する技術科学を有したリーダーの養成を行っていく。そのために博士後期課程に進学する学生等, 優秀な, 又, リーダーになるべく人材に対する支援制度も見直し, 整備をしている。

●武藤委員

- ・長岡のVOSもよい学生が応募してくれた。
- ・1, 2年はよかった。
- ・修士に進学する段階で, 必ずしもトップクラスではない状況になっている。
- ・入学後のフォローがなかった。
- ・モチベーションを落とさせないように, 鋭意努力しだした。
- ・ドクターとしてキャリアパスが必要

○学長

特別推薦で入学した学生に対して, 本学は責任をもって, リーダとして, 養成できるように教員にハッパをけるようにしていく。

●阿部委員

- ・特別推薦入学者も身分は同じか

○学長

- ・同じである。

●阿部委員

- ・特別推薦入学者は特別扱いなのか

○学長

- ・早期研究室配属, 海外研修, 語学研究優先等々の配慮を行うこととしている。

●阿部委員

- ・この制度以外の優秀な学生はどうなるのか

○神野理事

- ・教務委員会でも同様の意見がでている。2年間は支援するが, 修士以上は横一線で, 卓越プログラム等で対応していくことになる。

●阿部委員

- ・この制度とそれ以外で入学した学生に対する教育面で心配な点があるので, 今後, さらに整備をしてほしい。
- ・リーディング大学院が認められると全体がそうなるのか, 一部がなるのか

○神野理事

- ・リーディング大学院は5年一貫教育であるので、全体ではなく、一部が、そうなると思っている。

●阿部委員

- ・教育は経費の支援がなくても、実施していくことなので
- ・いろいろなプログラムがでるが、振り舞わされないように教育を行ってほしい。

○学長

- ・支援のしすぎで、甘やかすことにもなる懸念もある。危惧している。

●高嶋委員

- ・入れ替えるシステムが、やはり必要である。

●水谷監事

- ・いい意味での、エリート意識を持たせる必要がある。選ばれた人間であるということ。